

ふれあい文芸コーナー（山脈歌人会）

千秋楽に 君が代 を共に口ずさむテレビの前にて声高らかに
田中 やえ子
堂道 義夫

「山脈」の原稿提出期限なり立てど座れどいらつく心地を

北海道永年勤続功労者社会教育委員表彰

7月23日（日）に行われたオホーツク管内社会教育振興セミナーにおいて本町の社会教育委員 中楠 毅氏（新町）が永年勤続功労社会教育委員として表彰を受けました。これを受けて8月1日（火）に岸社会教育委員長より中楠委員へ表彰の伝達が行われました。

中楠委員は平成12年4月から現在に至るまで、17年の長きにわたり、社会教育委員として本町の社会教育振興に尽力されています。

また、自ら行う社会教育活動は、「自分でできることで町民のために活動できたら。」という思いから、前身は本町の中学校長を務められ、教務は数学教諭という経験を活かし、中学生を対象とした「数学教室」を平成22年に立ち上げ、現在も週3回、本町文化センターにて教壇に立っています。

表彰を受けられた、中楠さんおめでとうございます。



〇お詫びと訂正〇

ふれあいひろば7月号にて表紙絵の作成者名の記載漏れがありましたので本記事をもってお詫びと訂正を申し上げます。

たからだ よしのぶ
宝田 嘉信 氏（栄町）

ふれあいひろば8月号 かわら版にて「鶴登会29年の長い歴史に幕」の記事に表現の誤りがありましたので本記事をもってお詫びと訂正を申し上げます。

正 婦人学級の舞踊サークル

誤 婦人学級のダンスサークル

えんてい

就職してからあつという間に三十年を越えてしまった。転勤が当たり前の仕事と割り切っているとはいえず、引越しを重ねてくると、「またか。」という疲れた思いを抱く自分に嫌気がさすことが幾度もあった。振り返ってみれば、暮らしてきた町での思い出は、語り尽くせないほど多く、また、何年経っても忘れられない。転勤したばかりの頃は不安だらけだったのに、次の町への転勤が決まる頃には、住み慣れた町から離れたくない思いでいっぱいだった。

生来、何事にも、誰にでもすぐ慣れる傾向ではあるものの、「住めば都」のような気持ちにさせてくれる『その町』の魅力は何なんだろう。人、自然、食べ物、施設、利便さ、これらの全てかもしれないし、何かが傑出していたのかもしれない。ただ、自分自身が強く思っ過ぎてきたことは、どのような町に暮らしたとしても、どのような人たちに会えたとしても、受け身の生き方はしたくないということである。

人との関わりで言えば、自分から集団の輪に、地域の中に入っていくこと。自然や便利さとの関わりで言えば、不満や弊害を語るのではなく、よさを見つけたら、上手に生かそうとする気持ちをもつことである。まとめて言えば、何事もポジティブに考え、かつ、実行しようということである。

私は、たまたま、多くの町で生活し、多くの人と出会うことに恵まれた。ならば、その利点を生かし、その町、その町で、限られた年数で、何かを残して次の町に移りたいと強く思う。

今年、縁があって、滝上の住民となった。滝上のよさは何だろうか？滝上の人たちってどういう人たちだろうか？悩んでいても、自分は何も変わらない。滝上の町に、人に飛び込んで、滝上を満喫しよう。そして、いつか滝上を出るときには、「やっぱり、滝上も最高だった。」と言って、次の町に行こう。（Y・Y）